



飛塚 典子 子育て推進部長

昭和 57 年度入庁。
雇用対策課長、置賜総合
支庁保健福祉環境部長、
教育次長を歴任後、
平成 27 年度から現職。

「男性も女性も、仕事と家庭
の両立ができる働きやすい
職場をつくっていききたい。」
お子さんとの写真（2 頁に
掲載）からも、家族を大切に
思う、飛塚部長の気持ちが伝
わってくるようです。

県民の声を活かしたい～3.11 の経験～

経験してきた仕事について、それぞれに思い出深いものがありますが、1つ挙げるとすると、東日本大震災のときのことですね。私は、秘書広報課県民相談室に勤務しており、震災直後には、県民の方から「被災地の支援をしたい」「物資を送りたい」という声が数多く寄せられました。県民相談室には、年間約 1,000 件の問合せがあるのですが、震災時には 3 月 11 日からの 20 日間で約 1,000 件の問合せがありました。

しかし、県民の皆さんのさまざまな思いの詰まった物資を送ることは、被災地では受け入れしづらいという状況にありました。受入側では、物資の種類ごとにまとまっているほうが仕分けする手間が省ける事情があったんですね。そういう県民の方々から届いた声、気持ちを当時の災害対策本部へ伝えようと、悩みながら対応する日々でした。

その年の 4 月に雇用対策課へ異動になりましたが、そこでも被災者の方を対象とした雇用対策事業に関わるなど、引き続き、被災者への支援に携わっていくことになりました。

「わかりやすい言葉」で、「わかりやすく伝える」

県民相談室では、県民の方々から多くの意見や苦情などをいただきました。県政への理解と協力をいただくためには、県民の方からの様々なニーズを的確にとらえな

がら、効果的な情報発信とともに、わかりやすく丁寧な説明が必要だと思います。

法律の枠組みなど、様々な制約があるにしても、「できない」ときに、県民の方が知りたいのは「どうして」「なぜ」できないのかということ。「なぜできないのか」「どの部分を改善すればできるのか」を丁寧に説明することが求められていると考えています。

難しい仕事を乗り越えるとき…

どの部署でも、様々な目標があり、達成に向けて努力をしていると思います。

これまで経験してきた中で、全国的イベントの本県への招致の仕事がありました。他県と競合していたため、企画内容の精査や関係機関との調整など、大変なことも多かったのですが、当時の上司や部下の皆さんと一致団結して取り組んだ結果、なんとか本県での開催が決まりました。

大変なときこそ、みんなで一丸となって立ち向かう、実現するにはどうしたらいいか、みんなで知恵を出し合う。同じ方向に向けて努力していくことが、仕事へのモチベーションにもつながっているのだと感じています。



趣味や休日の過ごし方

子どもたちが小さいときは、スポーツ少年団の活動や、平日にできない分の家事をこなすと、休日が終わってしまふということも多かったですね。

好きなことと言えば、美味しいものの食べ歩きです。美味しいラーメン屋さんや地産地消のお店を巡るのが好きですね。

今は、子どもたちも独立したので、これまでできなかったこと、例えば、美術や音楽鑑賞、歴史や文化に触れる時間をもっと作ってあげたいと思っています。

家庭生活との両立～「お互いさま」の気持ちを大切に～

私が出産した頃は、今ほど育児支援の制度が充実していなかったため、産休明けにすぐ仕事に復帰しました。夫の協力は不可欠でしたし、職場、祖父母、ママ友、たくさんの人に力を貸してもらいながら子育てをしてきました。人との関係づくりは本当に大切なことだと思います。周りの人たちが理解してくれて協力してくれたからこそ、仕事と家庭の両立ができたと感じています。これからは男性も女性も、仕事も家庭も大事にしていくことが大切であり、プライベートを職場などで話すことに抵抗がある人もいるかもしれませんが、自分の置かれている状況を理解して協力してもらうことは必要だと思います。

自分がサポートしてもらったときには、「いつか自分がサポートする側に回ろう」というお互いさまの気持ちと感謝を忘れずにいたいですね。



《17年前、親子でそば打ち体験》



《仕事での一場面：県内保育施設の視察》

子育ての経験×仕事の経験～「気づき」を活かす～

子育て中は「18:00には保育園にお迎えに行かない」という時間の制約があったので、それを機に「仕事の質を落とさず、いかに無駄を省くか」「どの仕事を優先してやっていくか」を特に意識するようになりました。

また、仕事をする上で、「子育て中の気づき」「1人の県民としての気づき」が活かされる瞬間が沢山あると感じています。先ほどお話しした「わかりやすく伝える」ということも、そういった「気づき」を活かす場面ですね。

県の行政はこれまで男性が多い職場でした。でも、県民の半分は女性です。女性が必要としている施策を女性自身が企画できるというのは強みだと思います。

また、男性職員にも育休などで新たな視野が開けると思うので、ぜひ積極的に取得してもらいたいと思います。

仕事をしていると、たくさんの情報が入ってきますよね。いろんなことを知っているということは、子育てにおいても、もちろん役に立つと思うんです。「こういうこと知ってる？」なんて子どもにも教えたりしてね。

今後の目標

- ◎ 少子化対策や子育て支援の施策を通して、山形県の子どもたちの健やかな育ちを支援していくこと
- ◎ 仕事と家庭生活の両立ができて、働きやすい職場を作っていくということも大切にしていきたい



ロールモデル集を読んでいる人々へのメッセージ

私自身は特別なところがあるわけではなくて、地道なところを評価してもらってきたと感じています。ロールモデル集を読んで「この人だからできたんだ」ではなくて、その人の生き方を知って、少しでも「参考にしようかな」「取り入れたいな」という部分があれば、切り取って参考にさせていただけるとよいのではと思います。

また、女性に限らず、男性でも目標にできる人、尊敬できる人の生き方を見て、取り入れてみるというのでもいいかもしれません。



《仕事での一場面：やまがた女性活躍応援連携協議会に出席》



《仕事での一場面：新任保育士入職式での挨拶》

～働き方と子育てについて～

仕事をしながら、結婚・出産・子育てしていくことについて、たくさんの情報が飛び交っていて、躊躇してしまうという声も耳にします。でも、まずは、勇気を出して一歩を踏み出し、仕事も家庭も自分自身も幸せになる生き方にチャレンジしてもらいたいと思います。

採用される県職員のうち、女性の割合が約4割になってきたという状況や、育児だけでなく介護を担う必要のある方も増えることから、女性も男性も時間に制約がある中で仕事をしていくためには、これまでの働き方を変えていく必要があると思います。

仕事においては、多様な分野を経験することが、将来のキャリアアップにきっと活かされます。さまざまな分野の経験や人的ネットワークが困難な仕事の解決に活かされると思いますので、積極的にチャレンジしてもらいたいと思います。

～管理職として働くということ～

管理職は、難しいけれどやりがいのある仕事だと感じています。管理職であればこそ、「山形県を良くしていきたい」という思いを施策を通して形にしていけることができます。

「管理職になるとワーク・ライフ・バランスの実現が難しくなるのでは？」と感じている人もいますが、確かに管理職の責任は大きく、仕事を優先しなければならないこともあります。しかし、イクボスとして、管理職が率先して事務の見直しやワーク・ライフ・バランスの実現に取り組むことで、職場全体の働き方も変わっていくと思っています。

飛塚部長の仕事や育児に対する姿勢は、女性の皆さんだけでなく、男性の皆さんの参考にもなるのではないのでしょうか。

